



写真/逢坂 聡

## Contents.1

WORLD BOOK  
ワールド・ムック879

monoSTYLE  
OUTDOOR No.9

© WORLD PHOTO PRESS 2011

表紙写真:逢坂 聡  
表紙スタイリング:近澤一雅  
表紙モデル:山下晃和  
表紙デザイン:小柳英隆  
DTP:ペイス

編集部より◎商品は取扱説明書に従って正しく使用して下さい。掲載価格は消費税込の総額表示です。実勢価格は編集部調べの市場価格です。

### 第1特集

## 11 UNPLUGGED STYLE

～電気を使わないフィールドスキル&ギア～

LED、ガスカートリッジ、携帯電話。進化するアウトドアギアでフィールドスタイルは日々変化している。知恵と工夫と肉体の力で大自然に挑戦するフィールドスタイルを再考しよう。

### 第2特集

## 42 Field Trip to NIPPON

世界一美しい日本のフィールドを彩る最新ウェアスタイル!!

やっぱり日本のフィールドは美しい。楽しい! 縦走登山にクライミングに島MTB輪行。編集部が最旬フィールドウェアを身にまとい、日本の真夏のフィールドを徹底的に遊びつくす!

### 第3特集

## 78 中南米自転車紀行

山下晃和の旅暮らし～ジテンシャの力と自らの脚力で中南米を走り抜ける～

本誌をはじめアウトドアやジテンシャ専門誌大活躍しているモデル山下晃和さんが、半年間かけてメキシコからアルゼンチンまでの自転車旅を成し遂げた。汗と涙と感動の記録。

### 第4特集

## 106 先取り企画 秋のおくたま登山入門!!

今年こそ登山を始めようと思っている方への「登山のしおり」。どんな季節にどんな場所にどんな装備で行くべきか。編集部がわかりやすく徹底解説。巻末にはコラボギア情報もあり。





写真/逢坂 聡

## Contents.2

巻頭インタビュー

### 6 **ホーボージュン、 『青空ユニオン』を立ち上げる**

モノ・マガジン看板アウトドアライター、ホーボージュンさんに震災復興支援活動を聞く。

連載

### 27 **NEW PRODUCTS INFORMATION**

編集部へ飛び込んできた魅力に溢れるNEWフィールドプロダクトを厳選して紹介。

特別企画

### 36 **メーカーズリポート ～3.11を忘れないために～**

いち早くアクションを起こした日本のアウトドア企業の震災義援活動を改めて振り返る。

新連載

### 93 **MONO STYLE EDITOR'S CHOICE**

編集部が徹底的にフィールドテストを行い、もっとも優れたギアを6点チョイスする。

連載

### 100 **スズキサトルの絵描きごと**

文・イラスト/スズキサトル

キャンプマニアのイラストレーター・スズキサトルさんが選ぶフェイバリットギア！

連載:アウトドア蘊蓄図解

### 101 **『アウトドアギア選びの複眼的思考法』**

文/高橋庄太郎 イラスト/河合寛

本誌の名物連載。アウトドア業界のご意見番が放つ正しいフィールドギアの選び方。



# サバイバル登山家 宇野浩二さん に学ぶ サバイバル登山 の美学

「美しさの追求のため」と服部さんは言う。サバイバル登山の話だ。「フリークライミングの思想に感化された」と言う。道具に頼らず、岩肌を傷つけることなく、自らの身体ひとつで崖壁と、巨大な自然と対峙する行為に美しさを見出した。

サバイバル登山の実践で自らに徹底しているのは、電池を使わない。ストープを持たない、テントを張らない、登山道を極力歩かない、たんばく質を現地で調達するというようなこと。サバイバルと聞くと、ふつうの人は縄文人の暮らしといったイメージを抱くかもしれない。だが、サバイバル登山には文明の利器もあたりまえに登場する。なぜならそれを使っただけが「まだ（今は）美しい」からだ。

大切なのは「自分の力でやろうとすること」なのだという。そこに求める美しさがあると服部さんは考える。そして、自分の力を発揮させるためには「装備を選ばなければならない」として出した答えがサバイバル登山となった。彼の装備は、次のページを見てもらえばわかるが、とてもシンプルだ。ただ、シンプルであることこそがサバイバル登山なのではなく、美しさの追求が無駄を削ぎ落とした、サバイバル登山は結果であることはとても重要だ。

「このスタイルを広めたいなどという考えはない」と服部さんは言う。サバイバル登山とは服部文祥の美学であり思想の体現、つまり思考なのだ。そして思考とは生き方、生活だろう。ラディカルな生活者。そこから刺激を受けたいことなどあるだろうか。

## UNPLUGGED STYLE

### PROFILE

はっとりぶんしょう。「サバイバル登山」の提唱、およびテレビのドキュメンタリー番組で放送されたことで世間的にも注目を集めた。著書に「サバイバル登山家」「狩猟サバイバル」ともに（みすず書房）など。現在、雑誌「やまかわうみ」にて自伝的小説を連載中。



# 日本アウトドアメーカーの震災義援活動

いち早くアクションを起こした日本のアウトドアメーカーの活動を改めて振り返る。



津波により壊滅状態となった石巻市立吉浜小学校。津波のすさまじい破壊力、がれきの山を見やるモンベル代表の辰野勇さん。

東日本大震災の義援活動におけるアウトドアメーカーの素早いアクションは、被災地の方々はもちろんのこと、震災に遭われた方たちを支援したいと願う多くの人にも勇気と元気を与え、強い結束感を抱かせた。アウトドアメーカーが起こした義援活動の中心は「モンベル」その会長を務める辰野勇氏が代表の「アウトドア義援隊」そして「スノーピーク」である。彼らは、震災の翌日には支援物資の提供を、義援活動への参加を呼び掛け、被災地へ救援物資を積載したトラックと先遣隊を走らせ、自治体が拒んだ個人からの支援物資を、一カ月以上もたくさんの被災地へと届け続けた。

彼らが迅速に、的確な行動をとることができたのは、阪神大震災、新潟県中越沖地震、能登半島地震、新潟県中越沖地震での被災や災害支援活動での経験があったからだろうか。もちろん、それもあるだろう。しかし、そういった経験を差し引いても彼らはアウトドアメーカーなのである。

「生命を賭して過酷な自然に臨む」「自然志向のライフスタイルを提案し実現する」。目指すスタイルは異なるが、自然に生かされている身として、自然に柔軟に対応する術、生きる知恵が存分に発揮されたのだ。



業務命令ではない、有給ボランティア制度を社内で設定。のべ200人もの社員が復興作業を手伝った。

# mont-bell

## 阪神大震災の経験を活かし 中心的なアクションを起こす “アウトドア義援隊”

「復興支援のスタートダッシュ」アウトドア義援隊の活動を辰野さんはこのように語った。アウトドア義援隊は阪神大震災の際、辰野さんが日本全国のアウトドアに関わる企業や団体に向けた趣意書がきっかけ。①義援金、②救援物資、③人手という内容のファックスを送付して5分後、最初の返信があり、続々



(写真/逢坂 敏)

### profile 辰野勇さん

モンベル/アウトドア義援隊代表。東日本大震災の翌日、アウトドア義援隊の再開を決定。「手のひらに太陽の家プロジェクト」には企業として資金を拠出。

と協力の返事が届けられた。送られてきたテントや寝袋、ガスコンロ、衣類、キャンプ用品や野外生活用具はどれも災害の現場ですぐに役立つ。アウトドア経験豊かなボランティアたちがそれらを被災者に届け、使い方を教えて回ったのだった。アウトドアの実践で培った知恵を社会に還元すること。このためには迅速さが重要だ。この震災では翌日3月12日よりアウトドア関連企業・団体への呼びかけを開始して、同時に寝袋や防寒衣料、帽子、フリース生地を載せた2トントラックと先遣隊をモンベル大阪本社から仙台現地本部へ向けて走らせた。13日には全国からの物資が石川県のモンベル流通センターに届き始め、仕分け作業を開始。さらに14日より全国30万人のネットワークを活かし、モンベルクラブの会員にアウトドア義援隊への協力呼びかけのメルマガジンや配信。メンバーズポイントでの寄付、モンベルストアを窓口にした物資・援助金の受付もスタートさせた。5月31日までにアウトドア義援隊に集まった支援は物資援助が約300ト



はじめに本部を置いたモンベル仙台店でのミーティングの様子。先遣隊やボランティアが集結した。



ボランティアのテント村。着替えスペースやプライバシー保護用の個室としてテントが活躍した。

ン(トラック積載量換算)、現地ボランティアがのべ1500人、協力した個人が6760名、協力した企業・団体が約460、援助金33,141,820円、ポイント寄付は4,671,540ポイントにのぼる。集まった援助金はお見舞金(ひとり1万円を830名の方へ)として、被災地で緊急に必要な物資や燃料を購入して配布、そして今後は復興共生住宅の建築支援に役立てられる。

「日本の森バイオマスネットワーク」による復興共生住宅「手のひらに太陽の家プロジェクト」は仮設ではなく本格的な集合住宅である。地元の木材、地元の大工によって建てられる、20人ほどが生活できる共同住宅、住民が出た後もグループホームや野外教育施設として活用できる。

「原発に頼らない再生可能エネルギーで自己完結できるモデルハウスの提案でもある」と辰野さんは言う。「わずか20人では焼け石に水だが、それでも小さな力も集まれば大きな力となる」

アウトドア義援隊としての活動はとてあえず終息したがモンベルの復興支援はまだ続くのだ。



タンクローリーで灯油を配る。運転するのは危険物取扱の免許をもつモンベル社員。宮城県東松島市。



山形県天童市の現地本部で全国から集まった支援物資の仕分けをする地元の小学生ボランティア。



### 辰野さん自身も被災地に駆けつけ 先陣を切ってボランティア活動に従事

アウトドア義援隊の陣頭指揮をとるとともに、気仙沼や名取、女川、吉浜など被災地へ赴き泥かきなどを手伝った。写真は宮城県石巻市で民家の泥かき作業をしているところ。重機が入れない家の中は人の手でヘドロを除く。



### 阪神大震災時に発足したアウトドア義援隊

寒さに凍える被災者達に2000個の寝袋と500張りのテントを提供したが、災害の規模はあまりに大きく、モンベルだけで救援活動を行うことは不可能だった。そこで辰野さんは全国のアウトドア企業・団体に協力を呼びかけた。

# Field Trip to NIPPON

—夏なんだからフィールドに出て、大自然を思いっきり満喫しなきゃ！— 節電やら政治不信で何となく沈滞している日本のムードを振り払うためにも、フィールドに出向くのが元気の特効薬！ というわけでTEAMモノ・スタイルが皆さんの先陣を切って、日本中のフィールドを縦横無尽に遊び尽くしてきたぞ。夏山縦走にシークリフ・クライミングにMTB島輪行！ 気の合う旅の仲間たちを連れ出し、いざフィールドトリップだ！ もちろん最新&オススメのアウトドアスタイルにてガッチリ完全武装。モノ・スタイル流最旬フィールドスタイルでGo!!

写真/逢坂聡 map作成/スズキサトル スタイリング/近澤一雅 文/編集部 旅人/山下晃和、関沙織、鈴木直也、永田隼也

雨の多い日本の山でテント泊するなら、テント本体は通気性の高い生地で作られ、その上から防水性の高い生地のフライで覆う「ダブルウォール」のテントが最適である。設営の簡単な「自立式」テントがオススメ。山下さんのテントは日本メーカー「プロモンテ」のソロ用テント。体がデカイの山下でサイズでも快適な大きさが嬉しい。その大きさをわずか1.5kgの軽量さ！ 関さんはアメリカの新進ギアメーカー「ニーモ」のシングルテントをチョイス。フルメッシュのテント本体の上、フライが地面と部分的に接地している構造なので、通気性が素晴らしい、とにかく軽い。なんと1kgを切っている。もちろん二人とも「ダブルウォール×自立式」だ。

【左／テント】プロモンテ  
[VL24] 価格4万9980円@エイ  
チシーエス☎03-5200-0770  
【右／テント】ニーモ「オビ  
1P」 価格4万3050円@イワタ  
ニ・プリムス☎03-3555-5605

Field  
Trip  
to NIPPON

足元の踏み跡がほとんど見えない笹ヤブの急坂を登りきると広大なキャンプサイト。ここは南ア深南部の“テント場の聖地”と異名をとる「鹿ノ平」だ。標高2000m以上に広がるさながら「ゴルフ場」。不動岳への登山者が良く利用する。ヤブ漕ぎに道悪、さらに雨でルートが見つげにくいというバッドコンディションの中、さすがの山下さんと関さんはちょっと疲れ顔。でも、鹿が集うという広大な場所にテントを設営し、その幻想的な雰囲気につつまれ、いつもの笑顔が戻ってきたようだ。





# 中南米5755km自転車旅

# 山と泉の旅暮らし

中南米自転車旅は、僕の人生の集大成である。31年間生きてきたなかで培ってきた旅力、アウトドア力、語学力、体力、精神力、自転車の知識、そのすべてを試された場所。それが中南米だった。僕は物心ついたころから海外に興味があった。高校生の時、アメリカへ単身、語学留学したこともあった。「アメリカという国はなんて大きいのだろう」という感慨を抱いて帰国した記憶がある。そうだ、世界はもっと広くて、もっと面白い。なにより、旅人という響きが単純

にカッコイイと思えたのだ。2008年、旅の練習として、約5カ月間中国・東南アジアを自転車で走った。準備が追いつかなかったところもあったが、なんとか走破でき、自分の力がどこまで通じるのかが分かった。サラリーマンで、きちんと貯金していれば、お金をかけて旅することも出来ただろう。飛行機を何本か繋げば、世界一周なんて簡単な世の中だ。ただ、僕にはお金が無い。必然と節約型旅行者、いわゆるバックパッカーにならざるを得なかった。だ

けど、そんなスタイルが楽しかった。楽しくてしょうがなかった。19歳でオフロードバイクにハマり、日本各地の林道をHONDAのSL230というバイクで走り回った。湖畔や山の中で野宿して、そして26歳の時に自転車雑誌を通じて、改めて自転車の楽しさを知ることになった。体力があるうちは自転車で走ってみよう。海外自転車旅なんてステキなだろう！ 特注の自転車に乗って世界に飛び出すことにした。人生で学んだことを試す旅がここに始まった。

写真/山下晃和、宮坂政邦(WPP)  
文/山下晃和、イラスト/河合寛

2010年11日から  
2011年5月まで半年間、  
中南米11カ国、移動距離5755kmを、  
特注の自転車に40kgの装備を積み、  
ひたすら漕ぎ続けた旅の記録。



# 日本アルプス仕様!? ゴールデンプス仕様! な

イタリア製登山靴の名門・ガルモントが、日本オリジナルの縦走用ブーツをリリースした。何より目立つのは黄金色のカラーリング。稜線の峠道を照らす朝日に眩しく反射するルックスは、行き交う登山者の目を引くだろう。当然「日本仕様」はカラーリングだけでなく、ガルモントは無雪期の登山向きに「タワートX」という人気モデルを展開しており、この日本仕様モデル「エルモ GTX」はタワートXをベースに改良したブーツなのだ。改良のポイントはまず重さ。約100g近い軽量化を実現している。

またくるぶし周りの補強をソフトにすることで、よりはき易く、自由度の高い仕様を採用している。タワートXは日本の夏山の縦走にはやや固すぎるという印象があったので、エルモへの変化はユーザーに歓迎されることだろう。ただ軽量化や柔軟性を加えたことがブーツとしての安定性を疑問にしているのという不安がある。しかし編集チームでフィールドテストを重ねたところ、安定性にはまったく問題ないという結論に達した。むしろ充分な硬さを備え、荷物の多い長期縦走にも対応できるだろう。



02

## ガルモント 『エルモ GTX』 価格3万7800円

◎キャラバン  
☎03-3944-2331  
重さ:約695g(UK 8片足)  
ライニング:ゴアテックス  
アッパー:マイクロファイバー、ナイロン  
ソール:ビブラムMulaz

無雪期の縦走登山に対応。高いレベルの防水性と透湿性を持つ。硬度の異なる3つのEVAミッドソールがクッション性と安定性を発揮し、長期間の縦走でも快適に歩き続けることができる。



01

## ザ・ノース・フェイス 『インパルス フル』 価格9975円

◎ザ・ノース・フェイス原宿店  
☎03-5466-9278  
重さ:約70g  
生地:Ripstop Nylon IMPULSE  
サイズ:S/M/L/XL

ナイロン生地に施した撥水加工は100回の洗濯でも80%の撥水効果を保持する。背中の中裾部分にはスモールポケット付き。また襟先には風をシャットアウトするためのドロコードが。



「バックプル」や「ポケットプル」などコンパクトに収納できる機能は、アウトドアウェアにとってもはや当たり前となった。荷物ができるだけコンパクトに軽量化にまとめたアウトドアマンにとって不可欠な機能なので、各メーカーはウェアをより軽量化によりコンパクトに収納できるよう競い合っている。今夏、ザ・ノース・フェイスがリリースしたこのナイロン生地はフルオーダーも、コンパクトさを極限まで追求したアイテムだ。ご覧の通りこぶし大のボール状に収納できる。撥水加工が施されたナイロン生地は透けるほど薄い。そしてハーフジップ(プルーバー)という無駄をそぎ落とした通好みのデザインを採用。これらの要素が積み重なって、重さ約70gというありえない数字をたたき出している。軽さやコンパクトさだけでなく、裾や袖口にゴムシャワーリングを採用するなど、シンプルながらフィールドウェアとして機能性に妥協がないのも高く評価できる点だ。

このところのアウトドアウェア市場のバックプル合戦バトルに終止符を打つ傑作ウェアである。

# ベスト・オブ・ベスト バックプル・モノ



# MITAKE SNAP!!

2011年秋はおくたまといえば MITAKE!!

御岳だ!!

「富士山」「高尾山」の次に来る山はぜったい「御岳山」である。都心から電車で簡単にアクセスできるし、神社からのルートは非常にバラエティに富んでいる。



【フーディーパーカ】『ウィメンズシェラロングスリーブフーディー』価格7245円 [Tシャツ]『ウィメンズレイTシャツ』価格4095円 [トレッキングパンツ]『ウィメンズパレウエイパンツ』価格8715円 [キャップ]『ラベナスボールキャップ』すべてコロンビア®コロンビアスポーツウェアジャパン ☎0120-193-821

【ウインドブレーカー】『インバクトパーカー』価格1万800円 [Tシャツ]『ファンクションピケエアフローシャツ』価格4515円 [タイツ]『アシストタイツ』6195円 すべてフェールラーベン®フェールラーベン原宿神前店 ☎03-5778-2260 [ショートパンツ]グラミチ「ナイロンマウンテンショーツ」価格7140円®インス ☎03-5772-7404 [キャップ]メレル「ディファレンシャルカデット」価格3675円®丸紅フラットウェア ☎03-3665-0036

## 1 ケーブル列車で御嶽神社までワープ!



初めての方は意外に思うかもしれないが、御岳山の山頂を目指して登る人はほとんどいない。御岳登山鉄道・滝本駅から御岳駅までケーブル列車で5分ほど。そこから徒歩10分で御岳山頂の神社「武蔵御嶽神社」に到着してしまうのだ。

## 2 想定外の荒々しい道を越えて大岳山のピークへ



ここから本番! コースの最高標高の大岳山・1266mを目指して登りスタートだ。低山と言えど、道はかなり厳しい。大きな岩だらけの道もありを越えると大岳山山頂前の鳥居が見えてくる。



## 4 ゴール! ...と思ったらもう一山!!



鏡山からの下りは急なので注意が必要。途中天狗のお地蔵があるあたりで、奥多摩駅が見えてくる。最後に一山、愛宕神社を超えると道路に出る。下山口の側に温泉「もえぎの湯」があるので汗を流してから帰ろう。

## 3 ならかな尾根道をひらすら歩く



大岳山山頂からはならかな尾根道を下山していく。美しい林の間の気持ち良い道だが、とにかくこのルートが長い! 変化がないので多少飽きてしまったところで本日第3のピーク、鏡山山頂に到着する。

モノマガ  
×  
キャラバン  
コラボ企画

# 先取り企画!!

## 秋こそ おくたま登山デビュー!!

ちょっと早いけど、秋の紅葉トレッキングの準備はいかが? とくに「初めての登山」なら景色が素晴らしくて涼しい秋からがベストシーズン。そしてベストスポットは「奥多摩」。登山デビューの準備をしよう。

写真/逢坂聡、宮坂政邦(WPP)  
モデル/クコ、ケント  
マップ/ラスト/ススキサル  
文/編集部



### ACCESS!!

今回紹介する「御岳山〜大岳山〜鏡山〜奥多摩駅」は奥多摩山域を代表する縦走コース。登山道からのアプローチが簡単な日帰りコースなので、クルマで行くよりも気楽な電車を使った方が良さそう。アクセスはJR青梅線「御嶽駅」から西東京バス「ケーブル下行き」に乗れば10分ほどでスタート地点・御岳登山鉄道「滝本駅」に到着する。ちなみに降りては下山口から奥多摩駅まで徒歩15分ほど。御岳登山鉄道のHPを確認すればケーブルカーやバスの時刻表が掲載されているので、それに合わせて行動計画を立てよう。

御岳登山鉄道HP  
<http://www.mitaketozan.co.jp/>

**クコちゃん!**  
福島出身、自然が大好きな26歳のお嬢さん。これまでも数回、トレッキングの経験がアリだが数えるほど。

### ケントくん

秋田出身の23歳の元サッカー少年。今回の御岳が初登山! 体力にそこそこ自身ありだが、果たして…?

どうやら世の中は本格的に「登山ブーム」になったらしい。「山に登りたいんですが…」といった話を聞かされるのが最近ずいぶん増えた。とくに多い質問が「最初はどこに行ったらいいか?」「何を留意したらいいか?」という内容だ。そんな疑問を持つている方、ぜひ本企画を熟読してください。モノ・スタイル編集部が登山初心者の方をスカウトし、奥多摩・御岳から大岳山縦走コースに挑戦してもらったのだ。

このコースはとくに秋の紅葉の時期がオススメ。モデル二人にはちょっとかわいそうだったが、撮影時は梅雨の真っ最中。夏低山特有の蒸し暑い気候と、シトシト降りしきる雨の中、「秋の涼しくて美しい紅葉」をイメージしながら登ってもらった(ごめんなさい)。奥多摩は1000〜2000mの低山域のため歩きやすいが、標高が低いので気温は街とあまり変わらない。夏に汗タラタラで登るのはあまりオススメできないのだ。

ところで奥多摩といっても山域は広い。初心者の方ならぜひ御岳山を中心としたコースをおすすめする。登山鉄道や神社など、バラエティに富んでいるので飽きることなく楽しめるからだ。今回紹介する「御岳山〜大岳山〜奥多摩駅」のコースは、それほど厳しくもなく、かといってそれほどチョロクもない。初心者にはうってつけのルートである。そしてコース紹介だけでなくて、「はじめての登山」でそろえるべきギア類も後半きっちりまとめてある。ぜひ皆さんの「はじめての登山のしおり」として活用してください!

**Editor&Publisher**

今井今朝春  
KesaHaru Imai

**Editorial Supervisor**

前田賢紀  
Takanori Maeda

**Managing Editor**

下中順平  
Junpei Shimonaka

**Designer**

小柳英隆 (雷電舎)  
Hidetaka Koyanagi

**Photographer**

逢坂 聡  
Satoshi Osaka

熊谷義久 (WPP)  
Yoshihisa Kumagai

油科康司 (WPP)  
Yasuji Yushina

鶴田智昭 (WPP)  
Tomoaki Tsuruda

青木健格 (WPP)  
Takenori Aoki

宮坂政邦 (WPP)  
Masakuni Miyasaka

**Stylist**

近澤一雅  
Kazumasa Chikazawa

**Illustrator**

河合 寛  
Hiroshi Kawai

**Writer**

高橋庄太郎  
Shotaro Takahashi

**片山貴晴**

Takaharu Katayama

**山下晃和**

Yamashita Akikazu

**Advertising Director**

坪井一雄  
Kazu Tsuboi

**Production Director**

小川俊介  
Shunsuke Ogawa

**Circulation Manager**

笹川裕史  
Hiroshi Sasagawa

**Print**

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

**DTP**

**Base**

**Correspondents, Washington, D.C. Bureau**

(Pictorial Press International)

Norman T.Hatch

Mikako Burks

●乱丁・落丁は送料小社負担にてお取り替えいたします。  
●文中の価格はすべて消費税込みの総額表示です。

# NEXT

次号予告

2011年10月発売予定

## monoSTYLE OUTDOOR

NO.10

特集

# 秋冬アクティブ スタイル!!

モノスタイル アウトドア流最旬アクティブスタイル!  
旬のアクティビティとその装備を徹底的にスタイリングだ。



●編集の都合上、内容が一部変更される場合もありますのでご了承ください。

ウェブで会いましょう! |

ワールドフォトプレス ホームページ  
<http://www.monomagazine.com>

モノマガジン・ウェブショップ  
<http://www.monoshop.co.jp>

WORLD BOOK

ワールド・ムック879  
平成23年8月25日発行 (通巻879号)

## monoSTYLE OUTDOOR

NO.9

編集・発行人 ●今井今朝春  
発行所 ●株式会社ワールドフォトプレス  
〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2  
TEL: 03(5385)5666 [編集部]  
03(5385)1350 [広告営業部]  
03(5385)5701 [販売部]  
FAX: 03(5385)5617 [編集部]  
03(5385)1348 [広告営業部]  
03(5385)5703 [販売部]

印刷所 ●大日本印刷株式会社